文部科学省
地(知)の拠点

サイクルツーリズムフォーラム
「自転車を軸とした観光振興」
報告書

青森 COC+推進機構
雇用創出連携プロジェクト「ツーリズム」
（ＰＭ校：青森中央学院大学）

ALL AOMORI COC+

文部科学省 地(知)の拠点

参加無料

サイクルツーリズムフォーラム

自転車を軸とした観光振興

自転車で琵琶湖を一周する観光～「ビワイチ」

従来の旅行とは異なり、旅行先での人や自然との触れ合いを中心とした、新しいタイプの旅行スタイルとして、ニューツーリズムが注目を浴びています。

特に自転車によるサイクルツーリズムについては、しまなみ海道をはじめ、インバウンドも含めて様々な成功事例が出ており新たな雇用が創出されてきています。今回、滋賀県と守山市が中核となって進めている自転車で琵琶湖を一周する観光～「ビワイチ」サイクリングについて、琵琶湖周辺の市町と連携しながら、地方創生の取り組みとして環境整備を進めている同地区の取り組みや課題、そして目指している将来像についてお話していただき、青森県でのサイクルツーリズムの推進、雇用創出について考えます。

日時 平成28年11月2日(水) 18:00～20:00 (受付17:30～)

場所 ホテルサンルート五所川原 2階 萬葉の間
〒037-0053 青森県五所川原市布屋町25 電話 0173-34-8811
(駐車場は宿泊のお客様専用につき、公共駐車場或いは公共交通機関をご利用ください。)

講演 「自転車を軸とした観光振興
自転車で琵琶湖を一周する観光～『ビワイチ』」

講師 滋賀県 守山市役所 政策調整部次長 兼 地方創生推進室長 山形 英幸 氏

パネルディスカッション 「サイクリングとサステイナブルな地域の振興」

パネリスト

守山市 政策調整部次長 兼 地方創生推進室長	山形 英幸 氏
株式会社ウイルステージ 代表取締役	大谷 洋士 氏
株式会社ウイルステージ 営業統括部長	京極 卓也 氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員(地域づくりスペシャリスト)	藤原 誠二 氏
五所川原市サイクリング協会 会長	福士 貴美 氏

コーディネーター

青森中央学院大学
地域マネジメント研究所 所長・教授 岩船 彰

講師プロフィール

滋賀県生まれ 慶應義塾大学経済学部卒 住友信託銀行株式会社(現 三井住友信託銀行株式会社)本支店を経て、滋賀県庁入庁。平成27年度より、守山市役所(出向・現職)において守山市版地方創生総合戦略を策定。その柱の一つとして「自転車を軸とした観光振興」を推進。

定員 80名 (定員になり次第〆切)

対象 一般、行政関係者 観光関係者、学生

[主催] 五所川原市サイクリング協会、津軽海峡フェリー株式会社、青森COC+推進機構 雇用創出プロジェクト「ツーリズム」(青森中央学院大学、弘前大学)
[協力] また旅くらぶ、材 株式会社 [後援] 五所川原市、五所川原市教育委員会

おおもり県民カレッジ対象講座

お申し込み・お問い合わせ

青森中央学院大学 地域マネジメント研究所
〒030-0132 青森市大字横内字神田12番地
Tel:017-728-0131(代表) Fax:017-738-8333
E-mail: csk@aomoricgu.ac.jp

サイクルツーリズムフォーラム　自転車を軸とした観光振興

自転車で琵琶湖を一周する観光～「ビワイチ」

日時　平成 28 年 11 月 2 日（水）　18 時～20 時

会場　ホテルサンルート五所川原 2 階　萬葉の間

五所川原市布屋町２５

講演　自転車を軸とした観光振興

～自転車で琵琶湖を一周する観光～ビワイチ

講師　滋賀県　守山市役所　政策調整部次長　兼　地方創生推進室長

山形　英幸　氏

プロフィール　滋賀県生まれ、慶應義塾大学経済学部卒業、住友信託銀行株式会社（現三井住友信託銀行）本支店勤務を経て、滋賀県庁入庁。平成 27 年度より、守山市役所（出向・現職）において守山市版地方創生総合戦略を策定。その柱の一つとして「自転車を軸とした観光振興」を推進。

パネルディスカッション　サイクリングとサスティナブルな地域の振興

パネリスト

守山市　政策調整部次長　兼　地方創生推進室長　山形　英幸　氏

株式会社ウイルステージ　代表取締役　大谷　洋士　氏

株式会社ウイルステージ　営業統括部長　京極　卓也　氏

三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社

主任研究員（地域づくりスペシャリスト）　藤原　誠二　氏

五所川原市サイクリング協会　会長　福士　寛美　氏

コーディネーター

青森中央学院大学地域マネジメント研究所長・教授　岩船　彰

参加　60 名（行政関係者、観光関係者、サイクリスト、学生他）

主催　五所川原市サイクリング協会、津軽海峡フェリー株式会社、青森ＣＯＣ＋推進機構　雇用創出連携プロジェクト「ツーリズム」（青森中央学院大学、弘前大学）

協力　また旅くらぶ、材株式会社

後援　五所川原市、五所川原市教育委員会

あおもり県民カレッジ対象講座

講演　自転車を軸とした観光振興

自転車で琵琶湖を一周する観光～「ビワイチ」

講師　滋賀県　守山市　政策調整部次長　兼　地方創生推進室長　山形　英幸　氏

【挨拶】

司 会 ：それでは定刻になりましたので、ただいまより「サイクルツーリズムフォーラム自転車を軸とした観光振興、自転車で琵琶湖を一周する観光～『ビワイチ』」講演会を開催させていただきたいと思います。お忙しい中、本日は 60 名近い皆さまにお集まりいただきました。本当にありがとうございました。

わたくし、本日フォーラムの司会をさせていただきます、津軽海峡フェリーの高橋でございます。どうぞよろしくお願い致します。

これから始めさせていただきますけれども、その前に資料の方をいろいろ皆さまからいただいております。まずは式次第、それからこのフォーラムのチラシ、あと本日、講演とパネルディスカッションしていただきます皆さまの略歴、それから守山市様から琵琶湖一周「ビワイチ」のパンフレット類、それからご講演いただきます山形様、今、琵琶湖守山市のラフォーレ琵琶湖というホテルの 1 階にジャイアントストアがございますけれども、それに関連する記事、これをわざわざカラープリントしてお持ちいただいております。もし、足りないものございましたら後ほどまたお渡しいたします。あとリストバンド、「ビワイチ」のリストバンドをご用意いただいております。わたくし、今年４月に、実は守山市にお邪魔させていただきまして、台湾の中華大学観光学部の皆さまと今日いらしていただいている皆さまと一緒に琵琶湖を走らせていただきました。その時に琵琶湖の素晴らしさ、それから出来れば琵琶湖と青森という切り口で交流が出来たらいいな、というお話をさせていただいて、今回このような機会をいただきまして、実現することができまして、本当に心から嬉しく思っております。そう言う中で「ビワイチ」を強力に推進された張本人。張本人というとちょっと言葉があれですけれど、本当の推進役の皆さまに今日は来ていただいております。

まず、スケジュールと致しましてはこの後、滋賀県、守山市役所　政策調整部次長　兼地方創生推進室長の山形英幸様によるご講演、その後 10 分間の休憩をはさみまして滋賀県から 3 名、山形様を入れて 4 名、それから青森県から 1 名、5 名のパネリストの方をお迎えしてパネルディスカッションを行わせていただきたいと思います。終了時間は 20 時を予定しております。

皆さまどうぞよろしくお願い致します。あと、封筒の中にアンケートがございます。休憩時間もございますので是非アンケートの方もお答えいただいてお帰りになるときにいただければと思っております。

それでは開会に先立ちまして、主催者を代表致しまして、青森中央学院大学　地域連携センター長の高山貢より一言ご挨拶を申し上げます。よろしくお願い致します。

高 山 ：皆さん、おばんでございます。本日はお寒い中、またお忙しい中多数お集まりいただきましてありがとうございました。本フォーラムにつきましては、左側の青い看板に書いています「オール青森 COC+」それから右側の「地（知）の拠点」事業ということで、今、いろんな地方公共団体、様々な部分で人口減少で地域が疲弊している中で、地方創生ということで取り組んでおりまして、大学も弘前大学とかうちの大学とか八戸の県内 11 大学が、いろいろな地方の活性化、創生のプロジェクトをしてございます。

それで本学、青森中央学院大学は観光・ツーリズム関連のプロジェクトの推進役とい

うことで、今日はあのサイクルツーリズム「自転車を軸にした観光振興」ということで主催させていただきました。

先ほど控室でいろんなお話を聞かせていただいて、大変面白そうな基調講演とパネルディスカッションになりそうですので、あまり長く言うと皆さんからお叱りを受けますので、すぐご講演の方に移らせていただいて、わたくし自身もワクワクしておりますのでぜひ皆さんも最後までお楽しみいただきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

司 会 ：ありがとうございました。これより滋賀県　守山市役所　政策調整部次長　兼　地方創生推進室長の山形　英幸様によるご講演に先立ちまして、略歴を簡単にご紹介させていただきます。皆さまのお手元にも略歴をまとめた紙がございます。お生まれは滋賀県、昭和42 年、慶応大学経済学部卒、その後、現三井住友信託銀行株式会社に入行されまして滋賀県内、京都、近隣県含めましてご活躍をされました。

平成 11 年滋賀県に入庁されて中小企業金融等を担当されております。企業誘致も担当されております。平成 27 年、守山市役所に出向されて現職でございます。守山市の地方創生、これを総合的な立場で計画を策定されて、その中で自転車というものを一つの切り口といたしまして、今話題になっております「ビワイチ」という形に作り上げてこられた方です。それでは山形様どうぞよろしくお願いいたします。

【講演】

皆さんこんばんは。滋賀県守山市役所からまいりました山形と申します。今、過分なご紹介だったのですけども、私は今、滋賀県庁から守山市役所に出向しておりますが、まだ一年半しか経っていないのですけども、いろんな方にご協力いただいて、「ビワイチ」というか「ビワイチ」はもともと琵琶湖を自分のペースで自転車で一周するというような意味なんですけども、それを推進して急に動き出したというようなお話でございまして、今日のお話、なんかひとつでもご参考になるような話がございましたら幸いでございますので是非お聞きいただきたいと思います。

今日お配りしているのは、ご説明のパワーポイントの資料でいくつか資料ご用意していますけれども、まず「琵琶湖一周サイクリング」というパンフレットをお渡ししております。

開いていただきますと琵琶湖の地図が載っておりまして、私の勤務しております守山市はちょうど右下というか、南の方になります。一周 200 キロございまして、私の守山市と大津市の間に橋がかかっておりまして、琵琶湖大橋と申しますけども、この橋の北側が 150 キロ、南側に 50 キロ合計 200 キロというような日本最大の湖でございますので、それなりの広さはございます。ここはいろんな顔がありまして、南は住宅地の顔だったり、工場街の顔であったり、北は本当に神秘的な、私どもは琵琶湖のことをマザーレイクと呼んでいますけども、母なる湖、琵琶湖というようないろんな顔を持っておりまして、漁業もありますし、昔から観光、京都に近いというメリットもございまして観光を推進したりということで、今やっているところでございます。今日はここの観光の一つの切り口であります、自転車を軸とした観光振興というようなテーマでお話させてもらいます。

この自転車を軸にした観光振興というのは、地方創生の総合戦略の中で、後でパネリストで登壇されます藤原さんの命名によるところでございまして、自転車を中心に観光の取り組みをするということでございます。今回、表紙というかこの一枚目のペーパーでございますけども、これは 5 月にジャイアント社の創業者の劉会長というのを琵琶湖にお招きして、自転車で走った時のシーンで、トップが私の上司である市長で、宮本和宏っていいますけども、わたし初めて年下の上司に仕えることになりまして、45 歳、若いんですよ。東大自転車部出身という特異な経歴でございまして工学部出身ですが自転車部出身と言っているんですけども、2 期目であ

ります。1 期目は中心市街地活性化を一生懸命やって成果が出まして、2 期目に今入っているんですけれども、2 期目の柱、2 期目に入った時に地方創生の総合戦略を全国それぞれの自治体に作りなさいという話になり、先ほどの藤原さんはコンサルタントとして私達の地方創生の総合戦略策定にアシストしていただいたんですけども、その柱、いくつか後ほどお話ししますけれど、柱のひとつとして自転車をということで、サイクリングの盛り上がり、今ブームでございますけども、サイクリングの盛り上がりと守山を琵琶湖の中の守山の立地特性を活かして、まあ、発着点というか入口の所でポスターを貼っていましたけれども、「ビワイチ」の発着点としての守山を目指そうと言うところでの拠点としての場所と、それから自転車の街づくりとしての守山市を目指すというところでやっているとこでございます。

それで、このものですけども、ゴールデンウィークに今日来た 4 人もそうなんですけども 15 人で台湾に行きまして、台湾本場はどうなっているんだろう、自転車先進国台湾ではどうなっているんだろうというところで、ジャイアント社のジャイアントトラベル社というのがあるんですけども、そこのツアーに参加して縦断しました。

台北から最南端まで 5 日間で 527 キロ走るという非常に大変なツアーでしたけども、12 月にも実は台湾に行っていまして、両方とも市長の自腹で行ったんですけども、私達も自腹で行きましたけれども、ジャイアント社の劉会長にお会いした時にですね、この方、72 歳の時と 79 歳の時ですかね、台湾を一周自転車でされました。それがメディアに報道されて、非常に感動的な話を聞きました。もう引退しようと思っていたんですが、まあ自転車を走って、友達も出来て一層元気になったみたいな、非常に感動する話を飲み会の席で聞きまして、その席で市長が私達もやりたいというような約束をしまして、市長すみません！市長休みを取るのは 1 週間、ゴールデンウィークが限界ですからと、とりあえず半周しましょうということでゴールデンウィークに西海岸だけやりました。守山市のスタッフだけではなくて、今日来ている仲間と、地元の滋賀の企業の関係者、それから私は県職員が本籍なんですけども、県の職員とか 15 名で行きまして、ほとんど毎晩夜は飲んで、昼間は一生懸命走るという体育会のノリで、チャリ友になったということでして、その人脈がまた後で生きてくるというような好循環を生み出して非常に面白い体験でした。

そこで学んだ、台湾を 5 日で走ってみると、あ、こういう風にするのかとか、大変さが後で分かりまして。そのプロモーションとか守山市のプロモーションとかこの世界は“百聞は一見にしかず”ですので、サイクリスト目線というのが必ず重要ですので、体感することが一番だということです。このほかにも後で話が出てきますけども、「しまなみ海道」と台湾に私達学んで、その後もう学ぶところは学んでオリジナルなところはオリジナルを追及するというこんな 2 本立てで話をしております。

今日のですね、話のポイントをまずお話しておきます。自転車を軸とした観光振興は地方創生が出発点でございます。地方創生の取り組みのストーリーの中でやっております。二つ目がトップのリーダーシップで、やはりトップが動かないと何も話が進みませんというところをご説明いたします。

地域の強みと機会は何かというのを追及すると、私達は琵琶湖であったり、守山の場所の強みを徹底的に考えました。その上で今置かれた世間の環境というか、追い風は何だろうということを多分インバウンドとかいろいろあるのですけども、その機会を考えてこれをどうやってその強みをいかに活かすのかという基本的なその戦略を忠実に実行したと思っております。4 つ目が連携でございまして、行政だけでなくて企業の方とか市民の方を巻き込んでお話をやっていくと、これがまたそのいろんなシナジーというか効果を生み出す、というようなお話を実際やっております。5 つ目が地方創生は経済活性化のストーリーで、最後はどうなるのかというのを見せないと皆さん、なかなかついてこないっていうか、面白くないですから、何を目的にやっているのかというところは経済活性化ですよ、というところのお話でございます。

それから台湾での様子ですけど、本当に皆で走った時の写真で、これうちの市長でして、あ

とガイドさんがついていて、こういうホテルに毎回泊まりながら、朝に記念撮影をして走っていくという。最南端の所がここときここでございまして、満面の笑みですね。50 前後のおっさんが満面の笑みで喜んで写真を撮っているという状況でして、本当に台湾を走っているといろんな風景が変わって本当に自転車は楽しいな、と思うとこでございます。北回帰線を突破して南の方に走ってくと急に風景が変わりまして、気温も 40 度を超えまして、バナナ畑とかパイナップル畑とかが見えたり、土地土地の名物を食べながら旅をするという、本当に得難い体験でございました。

お手元にお配りしましたペーパーの東洋経済の 6 月の 11 日号なんですけども、この写真は後で紹介する守山の一番眺めのいい場所で撮られたものでございまして、5 月にジャイアント社の会長が来た時の記事でございます。重要なところだけ抜き出してお話を書いております。台湾でのその一緒に行った共有体験、自転車体験というのがまあ本当に人脈づくりに繋がっていると、その人脈を使って、皆さんのメリットがあるように動いていくと、それからその、自転車新文化とジャイアント社は言っているんですけども、「健康、環境、交通」それから何より友達が出来るのが自転車のいい所であるというようなことを言っておられまして、本当にそうだなと、わたくし達も共感しているところです。またこのペーパーをごゆっくりお読みいただいたらいいと思いますけど、自治体がジャイアントさんにいっぱい行っているらしくて、ただ、こういう自転車のその意義を理解していないとどうもお付き合いは難しいということを私たちは学びました。

私が勤務しています守山市の概要でございますけども、人口 8 万 1 千人ほどでして、珍しいですけども毎年 500 人ずつくらい人口が増えております。と言うのが京都から電車に乗って 30 分くらいで、土地が安くて、病院や学校や環境が良いところなんで、住宅地として今、脚光を浴びておりまして引越ししてくる方がいらっしゃいます。なので地方創生、なぜ地方創生かというと、今人口減少時代にどう対応するかという大テーマがあるんですけども、守山市の場合はちょっと変わってまして、学校が満杯で足りないとか、そういうようなちょっと状況になっておりまして、あんまり珍しい場所なんですけども、それはそれなりにいろんな問題がありまして、後で出てきますその琵琶湖岸のエリアがあるんですけども、そこはリゾート構想がありましたが、それが頓挫したり、大型ショッピングセンターが一時閉鎖したりとかいうような時期がございまして、非常に苦境の時もございまして、それを突破するためのひとつの方法・目的もございます。と、いうような市でございます。

うちの市、3 つのエリアに分かれておりまして、本当の中心市街地、駅がある中心市街地、ここは人口急増している所でございまして、マンションがぼこぼこ最近、建ってる所でございます。ジャイアントショップが出来たラフォーレホテルが琵琶湖大橋というそこのたもとにございまして、来年、マリオットホテルという外資系ブランドに変わる予定なんですけども、これはやっぱり「ビワイチ」ブームを当て込んでというかその背景にありまして、これ森トラストさんが経営されているんですけども、森トラストさんも着目してマリオットホテルに改装する、というようなことでこざいます。

ちなみに先ほど台湾に行った仲間の一人に森トラストの取締役がいらっしゃいまして、もうがっちり友達関係というとこで、いろいろ相談出来る関係になっております。この辺りがリゾートエリアで、守山における自転車の舞台は主にここなんですけども、観光としてはこちらでございます。ただ市民活動として全体を巻き込んでいくことが必要で、両面作戦で今やっております。後でも話をするんですけども、観光振興だけでやっていると、市民の方から「何やそれ」って話になりますんで、市民活動と両方やらないと話が上手くいかないということを私は実感しております。なので市内を回遊するであるとか、市民の方が乗る取り組みが非常に重要でございます。

守山市まち・人・仕事創生総合戦略、先ほど申し上げた地方創生の総合戦略でございます。わたしども、私の上司の宮本市長は、地方創生、「まち・人・仕事」と俗に言われるんですけど

も、この中で一番重要なのは仕事であるという風に言っています。要は仕事づくりにどうやって町・人を活用してやるのかというところが肝でございまして、この仕事づくりとは何を言っているかというと、地方創生でその消費や投資が盛り上がって、それが雇用を生み出して、経済活性化につながるっていうようなストーリーを、どうやって書くんですかというようなところで、地方創生「まち・人・仕事」で、最終章は仕事づくりということで、雇用なり経済に結び付けるというのが重要であるってことです。特にここに注力ということで、1 番 2 番は経済そのものでして、企業誘致活動をしますということで、私、本当は県庁から送られてきたのは企業誘致をしろという話だったのでしたが、今、自転車ばっかりやっていまして、企業誘致は別のやつがやってきましたけども、二人で樋口と企業誘致は二人でやっているということでした。創業支援・就業支援、先ほどいった人口が増加しているので、若い奥さん方とかちょっとそのプチ開業みたいなものですね、こういうので街に潤いをということでこの創業支援・就業支援のお手伝い、これもしております。で、3 つ目が自転車を軸とした観光振興で、守山市の地理的優位性、具体的にいうと京都から近いとか、琵琶湖大橋、琵琶湖大橋というのは「ビワイチ」をする何割か、1 番たくさん琵琶湖大橋を渡って行きますんで、その地域の優位性をフルに活かそうということでございます。それから琵琶湖はどうしても水とは切っても切れない関係なんで、水環境の保全・再生というところも取り組んでおりますし、もともとこの町、ちょっと変わっていまして、自治会加入率 95%という特別変わった町なので、まるごと活性化という独自の 3 年目なんですけども、自治会で自分達の地域の宝を磨いてくださいという、これに「ビワイチ」を絡めようかという話で、市内をぐるぐる回ってもらうネタにしようということで、今、その自治会の方には「自転車と絡めた取り組みをしてもらえませんか」という話をするようにしております。

それで「ビワイチ」のお話、本題に入りますけども「ビワイチ」とは日本最大の湖、琵琶湖を自転車に乗って自分のペースで一周するということ、これまで歩いてとかいろんな定義があったんですけど、去年ようやく定義が統一されまして、自転車で一周することが「ビワイチ」ですよってことで、県庁の中では納得していまして、県庁の中ではそういう定義で動き出しました。インバンウンドを含めたその観光客の増加、琵琶湖もあのご多分にもれず京都から溢れ出した観光客とか、あるいはインバウンドのお客様が非常に増えておりまして、去年だったかな、日本で 2 番目に増加率が、インバウンドが多かったとかというようなことで、遅れてその観光、京都の陰に隠れているんですけども、ようやく波が来たというところで今やっております。

自然環境、立地環境で大きな潜在力があるって勝手に言っているんですけども、「ビワイチ」というのは先行する「しまなみ海道」と並ぶ自転車の聖地となる可能性、要は、実は「しまなみ海道」から私達たくさん学んでいまして、尾道市・今治市とは、べったり、何回も訪問してノウハウを吸収してまいりました。

で、「しまなみ海道」は今、自転車の聖地として売り出されているとかなんですけども、「しまなみ海道」は、その両端、今治市・尾道市にジャイアントショップが出来て、そこにそのサイクリストが注目して、更にそのジャイアントショップの劉会長、創業者会長、この世界では有名な方という話なんですけども、この方が「しまなみ海道」を走ってというイベントが報道されて、CNN で 7 大サイクリングロード、世界で 7 大サイクリングロードに選ばれて発信されたということで、この流れをそのまま追っかけているのが「ビワイチ」でして、この流れでやっております。そういうことからジャイアント社へのアプローチを企業誘致の一環としてやりまして、これが上手くこの 3 月に誘致が成功しましたので、5 月に会長がやってきたということですので、同社の発信力とも相乗効果と、やはり行政がやる発信力というのは限界がありまして、企業さんとのシナジー効果というか、相乗効果を出すことでこんなにも凄いのかということがよく分かりましたけども、「ビワイチ」そして「ビワイチ」の起点としての守山市の知名度を上げるのに、この通りのストーリーでいけました。しまなみ海道を追っかけられたということで

ございます。あの「ビワイチ」その強みというか、先ほど強みと機会の話をしましたが、強みというのは何か、まあ弱みもあるんですけども、強みからお話しますと…あの、今日のお話はですね、今日も岩木山を見ながら 35 キロ走ってきましたけれども、非常に素晴らしい体験で、眺めも非常に良かったですし、それぞれの地域に強みがあるんですけども、今日聞いていただいて、自分の地域の強みは何だろうともう一回考えていただくと、あるいは議論していただくと絶対次に繋がると思います。今日は本当にひとつの地域のご参考ということでご覧いただきたいのですが、滋賀県は琵琶湖で行くしかありませんので、琵琶湖の美しい風景と湖周道路。湖周道路とは琵琶湖の周りにその道路、幹線道路が走っていまして、そこは自転車が走りやすい環境にありますので、琵琶湖を見ながら自転車で走れるというメリットがありますので、そこを一生懸命 PR しましょうと。それから京阪神、まあインバウンドの場合は関西空港に近いので、その地理的優位性をいかんなく使いましょうという強みでございます。それからもともと琵琶湖はヨットとか、ボートとかマリンスポーツやトレッキング、山がありますので、トレッキングとかアウトドアスポーツが盛んなので、そういうスポーツの素地がありますと。それから豊富な歴史・文化資源というのは、大河ドラマは 3 年に 1 回滋賀県がちょっとでも舞台となるので、そういう売り出し方、自転車だけでなく次の売り出し方もありますね、というような強みがあります。外部環境というか機会でございますけども、健康・環境・観光に良いサイクリングブームの到来ということで、本当に自転車に乗られる方が増えていると思います。どこ行ってもサイクリングされている方がいらっしゃいますし、高知でも今治の方でも増えていると聞いていますし、滋賀県のインバウンドのお客様が非常に、特に台湾を中心に伸びています。自転車の盛んな台湾からのお客様が増えているのでこれはチャンス到来ということでございます。それから県内観光とか宿泊事業者、ホテルの方のサイクリングの注目ということで、先ほど台湾に行ったことでも鉄道旅行会社の方とか、先ほどの森トラストの役員の方が入っていましたけども、そういう自転車好きのキーマンを仲間に引きこんでやるということでございます。守山市では先ほどのジャイアントショップの開業とか、マリオットホテルが開業予定ということで、マリオットホテルがあるということは、外国のお客様が更にいらっしゃるということを意味しております。予約システムの関係で琵琶湖にも行ってみようかという話になります。その時に滞在型、なるたけ時間を長く過ごしていただくために自転車というのはひとつのアイテムだったということで、ジャイアントショップがマリオットホテルに入る、ラフォーレホテルに入るということで滞在のコンテンツがまたひとつ増えたということで、そういう風な効果もございました。この好機を活かしていこうということでその方向性は官・民がなすべきことをしっかり把握し、早急に対応する、スピード感を持ってやらなければいけない。官・民がやることっていうのは後から説明しますけども、「ビワイチ」ブランド、しまなみはブランドが確立していると思いますけども、しまなみに続くブランドを確立しようということを目指しております。そして観光客の消費、観光事業者さんを中心とした民間投資を呼び込んで地方創生、まあ滋賀県経済活性化につなげる、このようなストーリーをやっていく。最後は民間主導による経済活性化、仕事づくりなんです。経済活性化、雇用も生まれて、公共投資主導ではありません、民間投資主導、これがポイントだと思います。

次ですが、「ビワイチ」の更なる飛躍のために私達がなすべきこと、というようなことを言っていまして、ジャイアント社の劉会長は目が肥えていらっしゃいますんで、体験を終えて記者の人が聞いたわけです。記者の人が「劉会長、琵琶湖はどうでしたか？」という話を、「サイクリングコースはどうでしたか？」という話をされた時に劉会長はこうおっしゃいました「やるべきことはたくさんあるが、サイクリストの聖地になる条件は十分に揃っている」まあ、微妙な言い方っていうか、やるべきことって具体的にはおっしゃいませんでした。全部はおっしゃいませんでした。これを考えろという話だと、私は宿題をもらったと思っていまして。私が考える行政がやるべきこと、民間の方にやっていただくことというのを整理しておきますけども、行政がやることは、サイクリストの視点で、これ重要だと思います。

私も役所の人間ですけども、どうしても供給者論理というか、役所の論理で勝手に作ってしまうんですけども、勝手にやってしまいますが、「サイクリストの視点で」これ今治市の方も同じこと言っています。サイクリスト視点が重要ですよ、と。サイクリストの視点で安全で快適で走りやすい環境を整備すること、具体的にいうと車道のみの道路とかトンネルがあるんですよ、「ビワイチ」にはこういう所が何か所かありまして、あと湖岸道路の植栽帯、表紙にあの走っている写真がありますがあの周辺、植栽帯を取って、もっと走りやすい環境にしようとか、分かりにくい案内表示、実際に道に迷うこともよくあるんですけども、このようなやらなければならないこと、これ役所しか出来ないですよ、民間の方はこれ出来ないので、これ役所がやらなくてはいけない仕事、ハード整備ですね。これをやらなくてはならない。それから湖岸地域のみならず、湖岸エリアには琵琶湖岸には私ども守山市も含めて 10 くらいの市がその周辺にあるんですけども、「ビワイチ」をやろうという所がまだ 4 つ、あとまた増えて今 6 つしかなくて全部制覇しているわけではないので、全県への広がりが必要であって、市民・県民の参画の盛り上がり機運、これは知事を動かさなくてはいけないんですね。先程のイベントも、知事を動かして旗を振っています。と、いうことで全県への動きをひろめるということでございます。「ビワイチ」は体験型観光であってネックレス状に広げて県全体への盛り上がりが不可欠。エリア全体の盛り上がりが必要ですよ、ということを言っております。

民間の方にお願いしたい、やっていただきたいことが「ビワイチ」の受け入れ態勢の整備、やっぱりサービスは行政では出来ない話なので、宿泊・飲食その他、例えばその宅急便であったり、それからお土産物であったりっていうのは民間の方でしか出来ませんので、そこはお願いしたい。お願いするというか、そのきっかけ作りとして使っていただければと。

それから交通インフラ、先ほど近江鉄道さんっていう話をしましたが、バスとかタクシーとか鉄道とか持っている会社さんなんですけど、インフラの対応、それから魅力発信、もちろん役所もしますけども、民間さん、特にマスコミさんの力を借りる、それから本当に地元の方のサイクリストの豊富な士気。

先週、「しまなみ海道」に今日のメンバーで行っていたんですけど、地元の方が本当にあったかい声援を送られるんです。それが本当に感動するというお話をよく聞きますので、地元の方の理解も必要ですということです。それで具体的な施策に入っていきますけども、地方創生で、交付金が今、国から提案型というか、提案して採択されてお金をもらっています。昨年と今年で守山市に私がきた時から制度が出来て、地方創生の補助の制度が出来ましてやっております。昨年度は自転車に特化してないんですけども、漁船を活用した漁船タクシーだとか、新たな観光資源開発っていうので、マーケティング調査など致しました。今年は県と関係市というか、琵琶湖に面した関係市と連携しまして「ビワイチ」の良さをとって今、実際やっているところでございます。

この写真、下の写真は琵琶湖のジャイアントショップの写真でございます。具体的にどんなことをしていますかということなんですけども、地方創生によるタイトルなんですけども、「自転車による琵琶湖一周『ビワイチ』による体験型観光ネックレス創造事業」というタイトルで地方創生の予算を国からもらいまして、今実施しております。その構造は関係市、県と含めて 4 つの市があるんですけども、共通のまたがるのはその、県が一括してやります。で、それぞれ自分がやるべきことをやるという、こんな構造になっております。県は琵琶湖にその自転車を運ぶ、搭載する観光船をですね、関係市のところに寄港させる取り組みもしますし「ビワイチ」全体の PR を海外からの体験トリップを実施しまして、やりますよというようなこともやっていますし、情報発信、こういうソフト系のマップを作ったり、PR したり、ということをやっています。それぞれ滋賀県、大津市・守山市がやっているんですけども、それら全部で 2 億 7 千万も予算がつきまして、わたくしどももマックスの 8 千万に近いお金、目いっぱいでいろんな事業をしているところでございます。これに来年すでに話が来ていまして、これに 2 つの市を加えて 6 市でやっていこうというところでだんだん増えてきていますが、まだちょっと足り

ないんですけども、6 市でやっていこうということになっております。この事業の名前…これは内閣府の地方創生の代表的事例ってことで、一応お墨付きを得ておりまして、今後もお金が取れる見込みになっていまして、だんだん広げていこうということになっております。このタイトルはうちの市長が自分で県に申請するんですけども、自分で割り込んで、自分で訂正したという、いろんな申請書を書き直したという、わたし徹夜させられましたけども、思いが強くてうちの市長が出張っていって引っ張っていったという。国交省出身の市長なもんで、補助金の取り方がめちゃめちゃ上手いというか、ツボどころが分かっていまして、その能力をいかんなく発揮して満額取ったという裏話がございます。

で、時系列でこの一年のお話をちょっと整理致しました。先ほど申し上げたように、私は出向して 1 年半なんですけども、ほんとに、元々素地はあったんですけども、動き出したらここ本当に 1 年くらいのお話でございまして、こういう形になりましたというご説明をします。ターゲットをジャイアントのショップ誘致におきまして、いろいろ話をしていましたが、話が難航しておりましたんですけども、とあるきっかけで日本法人の社長に会えまして、で実は台湾にちょっと今日来ている面々も含めて、実地研修に行こうと思うんですっていう話になって、自分で行きます、自腹で行きますなんていう話を、首長が自腹で行くなんて初めて聞く話ですなんて話で、そしたらそいう話なら創業者の劉会長に会わせてあげますという話とかで仲良くなりまして、で、あと先程申し上げた知事を担いでいくというのが非常に重要で、市長が知事にジャイアント社の社長が来るから一緒に走りませんかという話をして、この 3 人を揃えるのが非常に最初の難関でしたけども、これを 12 月のちょうど一年前ですよ、ちょうど寒い時期にまとめまして、後からご説明します漁船タクシー、漁船に自転車を乗せて琵琶湖を渡るという、さっきの地方創生の事業でやっていたやつにひっかけて、マスコミがカッと食いついてくれましてこれが報道されましてですね、この時に日本支社の社長は出店を決めたと言って下さっていますけども、これが一つのいいきっかけでございました。そうしたら、ラフォーレホテルがマリオットホテルにリニューアルしますよということで、ま、琵琶湖ラフォーレホテルが開業して 30 年で一切改装しなかったんですよ。ボロボロというかボロボロって言うと怒られますが、結構古いホテルになりつつあって、撤退するんじゃないかって私は非常に危惧していたんですけども、ここで投資するってことでこれはいい話だということで、これはもうジャイアント社と関係しているとは思うんですけども、真相はちょっと分かりませんが、軽井沢とか南紀白浜とか併せて改装しますということになりまして、この説明会というか、プレスリリースの会場に行って聞いていたんですけれども、なぜ琵琶湖を 30 位あるホテルの中で選んだのかというと、京都から近い、インバウンドが増えている、そしてそのスポーツ系のアクティビィティが盛んで、欧米からのお客様が滞在できるネタがあるということで、欧米からのお客様というのは、結構 1 週間単位で来ますので、長く居らっしゃるということでございます。そういう可能性がありますよ、ということを言われたのです。それから 3 月にお店が出来ました。レンタルサイクルを含む基幹店です。それから 3 月終わりにその地方創生のお金をもらう事業が採択されました。それから 4 月に台湾の中華大学という、結構台湾では観光部門に力のある先生がいらっしゃるとこの学生さんがいらっしゃって、ここに津軽海峡フェリーの高橋さんも走りに来られまして、そこで私達の面識が出来たという、今日のきっかけはこのイベントでした。歓迎会などもして、ここで盛り上がったということで起点の町を印象づけるという活動の一環でございます。で 5 月にあの湖南という私の守山市の近隣の市長を、一緒にサイクリングというのをやりましたけども、これもイメージ活動の一環でして、まあいろいろあるんですけども 4 つの市長が、近隣の 4 人の市長が一緒にサイクリングしているというのは地元の新聞さんには非常に分かりやすくて、全紙が取り上げてくれまして、いい PR になりました。皆でやっていきましょう、という雰囲気作りもしております。その翌日にジャイアント社の会長がやってきて、更にその翌日に一緒に走ったというとこでございます。総勢 50 人くらいで走ったんですけども、その時の様子がさっきの東洋経済の話でございますけども、この中に地元の地銀の滋賀銀行さん

の会長さんとか、近江鉄道の社長さんとか、地元の放送局の社長とか、要は地元の言うたらキーマンをできるだけ揃えて、出来るだけお声掛けして一緒に走っていただいたというところで、まあ県全体を巻き込むという風に、上手く成功したなあという、このイベントを使ってなという。地元の話でございますので、地元の活動ということで地元を使って「琵琶湖守山自転車推進協議会」という地元の方を中心に設立しておりまして、これが先ほど申し上げた観光面だけでなくて、市民活動を一緒にやるという両方をしなければならないというひとつの取り組みであります。9 月に今治市長さんがうちの市にお越しになりまして、意見交換をしまして、先進地に学ぶということで関係を強化したとこでございます。先週、こないだの日曜日に今治市で開催されました、サイクルしまなみに市長が一番長い 150 キロのコースを走り、後で出てくる京極さんも一緒についてもらいましたけども、フォロー役で 150 キロ走破ってことで、滋賀県も頑張ってますみたいな話をそこで…実はこういう大会は外交の場でございまして、広島・愛媛両県知事、今治・尾道両市長、それから民間企業の関係者、それから国・県・市の方とかいろんな方が来ていまして、台湾からも来ていまして、外交の場だったんですよ。実はわたし行って初めてびっくりしましたけども、パーティが 400 人くらいで前夜祭をやっていまして、みんな名刺交換の嵐ということで、実はここは外交の場だったということでいろんなことが勉強になりました。これも現地に行かないと分かんないな、というとこでございました。

で、昨年度からそのいろんな取り組みでやっておりましたら取材が相次いだりしております。で、具体的に守山市が何をやっているかでございますけども、京都から近いということを活かしまして、「ビワイチ」アクセスバスってのを走らせていまして、京都駅から直通バス、今まで乗り換えないと行けないんですけども、京都駅の新幹線口にバスを一日 3 往復走らせておりまして、トランクのおなかの中に自転車をそのまま入れられます、5 台まで。というやつをやっていまして、更に商品券を付けまして、商品券は地元のホテルとかショッピングセンターで使えますという、これがめちゃめちゃ好評で、来年もやってくれという話がきているので、まあ、やりましょう、ただし協賛金ちょうだいね、という話はしていますけども。今年はもう役所持ちでやりますからということで、これはアクセスバスという両方やっていますが、守山駅から両方やっていますが、断然京都駅からの方が好評だったのですが、両路線とも自転車を乗せられるというのが肝でございました。それから先ほどお話しました漁船タクシー、実は地元には漁業組合さんがありまして、琵琶湖は漁業の面もありますけども、漁業、今お魚が取れなくなっていまして、外来魚にやられまして、漁業組合さん、多角化の一環で「自転車も乗せる、人も乗せるっていうのはどうでしょうね」って話をしたら面白いねって話になりまして、いろいろ経過はありましたけども、自転車を漁船に乗せて、走るということでございまして、1 隻 7 人それから最大 3 隻動かしますよということです。去年はもう大赤字だったのですけども、今年はその効率性と安全性を考えて、ルート設定やったり、料金設定をしまして、基本、団体借りで 1 隻借りて 1 万 5 千円でその対岸に渡してあげますよという、このルートが一番多いんですけども、そのルートを絞り込んでここを動かすというようなことをしています。「ビワイチ」は 200 キロありますんで、なかなか 1 日では回りづらいので、ショートカットできます、「プチビワイチ」できますよという話をして、PR をしているとこでございまして。で、今年 50 隻、動かしてましてですね、延べ 50 隻やっていまして、あの漁船ならではの臨場感、もう水がかかるんですけど塩水でないんで気にしませんし、風を受けて走りますんでこれも面白いということでございます。これも PR のために先程のジャイアント社の劉会長を乗せたんですけども、劉会長は自転車のこんな楽しみ方があったのか、これは面白いということで、これ、「これ面白い」って日本語で言ってくださいまして、評価をいただいたところでございまして、この時も 3 隻出しまして、VIP 船、お供船、それからスタッフ・マスコミ船みたいな感じで、こうやって写真をしっかり取ってのちのち営業活動に使うという。自転車を積んで走る、そんなことをやっております。これあの運輸局の許可取ってやっているんですけども、「すいません、立たせないで下さい」と言われましたけど、「危ないですから」とか言われて一応、運輸局から行政指導をちゃ

んと受けて、免許も取ってやっているということでございます。
市民活動の話でございまして、自転車購入補助金、守山市自転車購入補助金というのでやっております。市内の方に自転車を買って 20%補助しますという制度、実は消費税が上がった時も経済対策でしたそうですけども、それを復活させまして、今回はスポーツ用自転車も入れますよということでやっております。6 月にスタートしまして、当初予算 300 万だったんですけど 100 万増額しまして 400 万にしまして、ほぼ、もう使い尽くした状態でございます。234 人、うちスポーツ車が 64 人で自転車販売総額 2,700 万ということで、地元の自転車会社さん、販売店さんも非常に喜んでいるんですけども、このような形で自転車の町づくりみたいなことのひとつの取り組みでございます。その話はもう一枚の緑のペーパーの方にちょっと書いておりますのでまたご覧いただければと思います。
守山市、なんでやっているかというと先ほど経済活性化と言いましたけども、ショッピングセンターがありますその湖岸エリアは、実はバブルの崩壊の後に、もうほんとに寂れた状態でして、ピエリ守山というショッピングセンターが出来たんですけども、なんと 2 年後くらいで廃墟になりまして、閉鎖になってしまいました。これ、明るい廃墟と言われたくらいなんか変なイメージがついちゃったんですけども、最近また復活しまして、再投資の話も追加投資の話もあるくらいちょっと今、復活しております。
他にもいい美術館であるとか、道の駅みたいな JA さんの施設がありまして、これが年間 16 万人、こちらが年間 44 万人の集客がありますので、ここら辺でお金を落としていただけるような仕組みが、今どうやってやるか考えているところでございます。そういうことでございます。
次がプロモーション活動、守山市のプロモーション活動で地方創生のお金をいただいてやってるもんでございます。こういう旗を「ビワイチ」の旗を作ったり、皆さん、リストバンドお配りしておりますので、是非ノベルティですけども、お使いいただければと思います。こういうデザインを作りまして、土と風と水という感じの 3 種類、3 色になっていますけども、これ木のラップなんですけど、地元の滋賀県産材の木の間伐材を使って、地元のデザイン会社にデザインしていただいて、福祉事業所でこれを加工していただいたという、一応ストーリー付きのお話なんですけども。これを市内 17 箇所、今回設置しまして、そういう眺めのいい所に設置するとか、これもなかなか公園の許可を得るのが大変だったんですけども、一応取れましてこういう形になっております。それから先ほどの近江鉄道さんのタクシー会社と組みまして、タクシーの後ろに自転車を乗せられるような取り組みをしておりますけども、こういう自転車に優しい町、飲酒しても安心よとか、にわか雨も大丈夫とか、病院に行って、行きは自転車で調子良かったけど帰り病院で注射したら気分悪くなった、みたいな話になった時は自転車を乗せて帰ってくださいというようなサービスも、タクシー会社さんに話をしたらオッケーという話になりましたのでこれをやっております。
で、先ほどのピエリ守山さんにはオーバーブリッジ、渡る橋があるんですけども、ここにこういう「FUN! RIDE! BIWAICHI! START&GOAL MORIYAMA」というイメージ横断幕をこういう風にかけたりしています。琵琶湖大橋を通ってくるサイクリング「ビワイチ」の人が大変多いので、そこにターゲットを置いております。
台湾の経験を活かしまして、市でサポートカーというのを作りまして「しまなみ海道」に持って行きました。味噌はですね、なんでもあります、サイクリングに必要なものは全て積んでます。ということで後ろのハッチを開けると、棚がありまして、果物、お菓子、水、雨がっぱ、何でしょう、もちろん空気入れ、ごみ箱、何でも揃ってるみたいなことで、普段は運営費用を安くするために、普段は公用車扱いにしていまして、イベントがあるとこれが出て行ってマラソン大会にも応用出来るんですけど、こういうようなサポートカーというのを運営していまして、ハイエースの後ろに、地元の自動車販売会社から寄付いただいて、それを改装してこういうラッピングして、デビューして、つい先週、土日にデビューさせたところでございまして、この写真を撮って、マスコミさんに渡して PR いただいたとこでございます。

今、入り口にもあのポスター、もう先週出来たばっかりなんですけども、「しまなみ海道」のイベントブースを出すためにもう全てこのノベルティとか準備をしまして、これ守山の対岸から私達の市を見た、これ琵琶湖大橋なんですけども、こういうイメージ広告を作りまして、イメージポスターを作りまして、やっております。今、動画の撮影をしておりまして、「しまなみ海道」の動画というのが伊予銀行さんが作った動画が非常に良く出来ていて、それを超えたいという思いがありまして、ちょっと今、問題になってる電通さんと今組んでやっておりますけども、何とか早くこれを完成させて、全国の自転車販売店さんとかに配って「ビワイチ」のイメージづくり、そして「スタート＆ゴール」の町を守山のイメージを作り上げたいなという風に考えております。

これなんですけどもラフォーレホテルの前のイメージ図です。これはハード整備になるので行政の仕事なんですけども、この手前にラフォーレホテルがあって、この前に県営公園があります。なぎさ公園がありまして、そこに自転車の園路を整備しまして、ここに像を作ろうと。SNS 時代なんで撮影スポットを作るというのがポイントです。これ、やったもん勝ちということで「ビワイチ」の起点ってどこですかというのが特に決まってないので、やったもん勝ちでここを起点にしようということで。実はこれ、マスコミさんが連れてきたモデルさんでほんのちょっと変わったポーズをされたんですけども、新体操だったんだそうですけども、危ないのでちょっと変えるんですけども、このイメージの像を今作ろうとしています。実はこれも私の部下の職員が書いた絵なんですけども、こういうイメージ図で盛り上げていくのも大事。要は目に見える形にするのが大事で、実は許認可が大変難航していまして、これ琵琶湖なんですけども、これは琵琶湖の河川区域という区域で更に、そこはその河川法の許可、それから公園が上に乗っかっているんで、公園法の許可、それからいくつもいくつも規制がかかってまして、三つも四つも許可を取っていかなければいけないんですけども、一応こういう絵を作って意義を話して、突破していくと。なんとか予算を 3 月までにやらないといけないので、一生懸命やっているんですけども、岩盤規制を何とか突破しようということで今やっております。そうなるとここに自転車のサイクリストの方が集っていただいて、守山から北の湖を見る眺め、非常に素晴らしいんですけども、ここを売り出して行こうということで今取り組んでおります。琵琶湖、サイクリスト、文言はまだどうするか考えてないんですけども、こんなことを考えております。

これは普段説明しないのですが、守山市の自転車施策が私が思っている構図がこういうことになっております。市長のトップダウンなんですね。うちの市長は若いサイクリストで自転車大好きというお兄ちゃんというと怒れますけど、人なんで、市長のトップダウンなんですけども、実は市役所のスタッフはこれまでなかなかついてこられないというか、なかなか動けないっていうことが多かったんですけど、私がここに派遣されまして、その間を取り持っているというのが正確なところです。市長のアイデアだったりを実務に落とし込むという、ここがいつも引っかかったところなんですけども、自転車施策に関しては今日来ているアドバイザーの市長のブレーン、今日来ている私以外の人は市長のブレーンなんですけど、アドバイザーの人達の意見を交換してそのアイデアを実行しているという感じになっているんですよ。ここでいつも詰まっていたという話になっていた。私は、実行部隊である市役所のスタッフをこうやったらいいんじぁないか、ああやったらいいんじぁないかと言いながら、こうなるよ、とかああなるよ、みたいな話をしながら、ひっぱってくというような役割でございます。それに関係する人たちを巻き込んでいくんですけども、もちろん市の施策でございますので、議会のご理解を得ないといけません。議会の、こないだも最大会派の先生方をあの「ビワイチ」プチサイクリングに漁船タクシー乗せて、プチサイクリングしてもらいました。やっぱり連れ出すことが最大に重要で、先ほど申し上げました、この世界は本当に体験してみないと分かんないというのがあって、体験してファンになっていただく、自転車の、サイクリングのファンになっていただくというのがありますんで、ロビー活動の一環ですけども、そういう取り組みもしております。

それに国・県、他の市町村て書いてましたけど、国からは補助金なりその PR のお手伝いしてもらわなければいけませんし、県は他の自治体を巻き込むのに重要ですし、他の尾道・今治、先進地からも継続的に関係を作って学ぶ必要もございます。それから、この企業とこの企業、どっちがどっち、滋賀県内の企業とナショナルブランドの企業っていう関係なんですけども、これからいろんな企業と連携を図って行きたいと思っていますし、メディアの使い方も重要でございます。

で、まとめに入って参りますけども、政策の対象とは、観光振興と市民活動が両方やっていきますよという話。それから政策の推進のハードとソフトこれも両面です。自転車でいうそれぞれ両輪なんですけども、それぞれの両輪をやっていく必要がございまして、それを民間を通して経済効果というところがポイントでございます。

本日のお話のまとめでございますけども、トップのリーダーシップが推進力。わたしどもの市長は非常にアイディアマンで、自分がサイクリストなんで思いついたことはすぐやりたいというたちで、それはいいことなんですけども、それをいい面でなんとか推進力に使っていくというところでございます。それから地域の強みと機会を考え抜くということで、私達の場合はその琵琶湖であったり、守山の場所であったり、そのこれまでの経過であったりということで強みを整理して、今の経済環境であったりブームであったり、その他の地域の動きであったりという機会を考え抜いて、それをどうやって活かそうかということを考え抜きました。考え抜いて実行しているというとこでございますので、是非皆さんも自分の地域の強みであったり、その周りの環境であったりというのを今一度お考えいただいて、どうやったら上手くいくのかというのを考え抜いた先にたぶん答えがあるんだと私は思います。

観光振興と市民活動の両面でございます。市民の活動なくして、観光振興はないと思っていますので、市民さんも「あ、いい取り組みだね」って言っていただけるようなことが絶対わたくしは必要で、市がやっているからにはこれが不可欠だと思っています。それから行政しか出来ないハード整備、道路整備とかは本当に役所の仕事です。あの琵琶湖の周りの道はほとんど県道なんです。市が出来ることは限られるんですが、こないだ滋賀県議会、9 月議会があって、知事がまあ答弁している訳です。議会の答弁とは何というかコミットメントに近いものがありますけども、市長がいろんな話しかけをしました、市長から知事に話しかけて、私も向こうの事務方に話をして、道路予算の話なんですけども、3 年以内に道路の危ないか所とかは緊急的に整備しますという話と、それから今後 10 年かけて完全なものにしていきますという、答弁をしています。そういう答弁を引き出したということはひとつの道筋がついたということなんで、滋賀県庁内も動き出したなというとこで、そういう形のハード整備も市の立場からするとあるのかなあという風に思います。

それから民間連携のソフトでございます。民間の方は役所がいつか手を引くんじゃないかとか、突然いなくなるんじゃないかという不安の中でやられていると、この仕事をやってよく分かりましたが、そんなことありませんと、やっぱり長期計画で役所はやっていきますよということで、民間の方は長期で動くというか予見というか、環境が一定であることが投資の要件になると私は思っていまして、僕も頑張って参りますということを行政が約束するのが重要と思っていますので、安心して投資してくださいということを申し上げております。

地方創生は経済活性化のストーリーっていうことで、観光客の消費、それに触発された企業さんの投資、雇用、経済、地方創生推進というようなストーリーで、話を進めていくというのが私達の考えた地方創生であり、「ビワイチ」推進が目的だというお話でございます。

本日、以上が私からのお話でございまして、また質問はなんか最後にございますけども、今日お話しさせていただいた内容が一部でもひとつでもなんでもいいんですけどもご参考になればと思いますので、一緒に頑張らせていただきたいと思います。また琵琶湖も一度お越しください。まだ、しまなみの方が進んでいますので、しまなみの方にも行っていただきたいですし、琵琶湖にも来ていただきたいと思いますので是非よろしくお願い致します。どうもご清聴あり

がとうございました。

ALL AOMORI COC+
サイクルツーリズムフォーラム
自転車を軸とした観光振興
自転車で琵琶湖を一周する観光～「ビワ

ALL AOMORI COC+

ALL AOMORI COC+

パネルディスカッション「サイクリングとサスティナブルな地域の振興」

パネリスト　守山市政策調整部次長　兼　地方創生推進室長　山形　英幸　氏
株式会社ウイルステージ　代表取締役　大谷　洋士　氏
株式会社ウイルステージ　営業統括部長　京極　卓也　氏
三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
主任研究員（地域づくりスペシャリスト）　藤原　誠治　氏
五所川原市サイクリング協会　会長　福士　寛美　氏
コーディネーター
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所　所長・教授　岩船　彰

司 会 ：　これよりパネルディスカッションの部に入らせていただきます。パネリストの方、これから紹介させていただきますけれども、せっかくいろいろなご経験の皆様に、なかなか表に出てきていただけない皆様に、お集まりいただきましたので、皆様こちらのパネリストの方のご紹介をご覧いただいて、簡単にご紹介をさせていただくということをご了承していただきたいと思います。まずは先ほどご講演いただきました山形様、よろしくお願いいたします。その隣、順番に参ります。株式会社ウイルステージ代表取締役の大谷様でございます。よろしくお願いいたします。こちら略歴の所、開発不動産いろいろ書かれておりますけれども、今日こちらに来る途中お話を聞きましたら、いろいろな事にご興味を持たれて、いろいろな事を成し遂げていくという社長様であられる様でございます。あと、あの山形様とは最初の入行された銀行から、ずっと一緒でご親友という間柄という風に聞いております。そのお隣です。同じく株式会社ウイルステージ営業統括部長の京極様でございます。よろしくお願いします。

京 極 ：よろしくお願いします。

司 会 ：今日いらっしゃった方の中では一番走ると。一番の走り屋が京極様でございます。続きましてそのお隣、三菱 UFJ リサーチアンドコンサルティング株式会社主任研究員で、まさにあの地域作りのそれのスペシャリストでございます。藤原様でございます。

藤 原 ：どうぞよろしくお願いします。

司 会 ：よろしくお願いいたします。それで皆様に向かって一番左、最後になりましたけれども、五所川原市サイクリング協会会長の福士様でございます。よろしくお願いいたします。

福士会長：よろしくお願いします。

司 会 ：パネリストの皆様、以上 5 名でございます。コーディネーターは青森中央学院大学地域マネジメント研究所所長・教授の岩船彰が務めさせていただきます。それでは岩船先生よろしくお願いいたします。

岩船所長：それでは、これから始めさせていただきたいと思います。本日の講演のテーマとパネルディスカッションのテーマというのが微妙にずれているということ、お気付きになっていると思いますけども、山形さんのお話にあるように観光ということだけでは早場に行き詰るということで、全体の市民を巻き込んだ活動というものが展開されなければ持続可能性というのが保障されないということを踏まえて、若干テーマを変えさせていただいております。今、司会の方から、皆さんのご紹介があった訳ですけども。滋賀県からいらした方、ほとんど 50 歳前後と。同年代ということで、普通であれば、会社の大きな肘掛が付いた椅子に座って、踏ん反り返っているようなお立場かと思うんですけれども、実際は、現場に出て、若い人をどんどん引っ張っていく、というふうな非常にバイタリティーが溢れた方々です。その背景には、やっぱりバイクに対する思いというのが非常

に強いものだと思いますので、それを話していただければ、多分 5 分 10 分で終わらないはずなんですけども、今日は持ち時間が 35 分。1 人あたり 7 分しかない。という非常にタイトなディスカッションですので、お 1 人 2 分位ずつ、滋賀県からいらしてくださったスピーカーの方にお話いただきたいと思います。勝手なんですけど、手前の山形様からお願いできますか。

山 形 ：はじめまして。守山市役所の山形でございます。自転車に対する思いということなんですけども。私は本当に、自転車を買ってまだ 1 年半も経ってないので、私が語るものではないのですけども、実際乗ってみると、こんなに楽しいものはないという風に思いました。先程、ジャイアント社の会長が、あの健康、環境、交通、友達が出来ると。最後、友達が出来ると、非常に本当だなぁと思いまして。自転車に一緒に乗った瞬間から友達になるということはですね。今日も高橋さんとか、小田桐事務局長さんとかと一緒に走らせて頂きましたけども、一緒に走って何か、体験を共有することで友達になって、仕事の話は後からでも十分だと思いますんで、まず友達。先程、雑誌のコピーにもチャリ友って書いていましたけども、チャリ友が新たな切り口というかキーワードと思っていまして。いい趣味を見つけられて良かったなと思います。では、今後とも、自転車と付き合っていきたいなぁという風に思っております。以上です。

岩船所長：ありがとうございました。

大 谷 ：皆さんこんばんは。こんなとこからちょっと恥ずかしい形でお話をしているんですが。私の体型を見ていただくと分かると思うんですけど。今、体重が 84 キロあります。実は 2 年前にここのメンバーと一緒にスポーツ自転車を買う羽目になりまして。自転車屋に行きましたら、店の女の子に体重を聞かれるんです。なんでかなぁ？と。なんで体重何キロですかって、もごもご言ってたら、しつこく聞いてくるんですよ。正直に言ったら、そこに書かれまして。何で体重聞くんだろう？と思ったら、要は自転車が重さに耐えられない可能性があるんで、85 キロか 90 キロくらい何か制限があるらしいんでね。カーボン自転車はあんまり太い人が乗っちゃ駄目なんですって小声で言ってくれてですね。もうどきどきしながら、ギリギリ乗っていいでしょうという形で自転車を買わされたのが初めでございます。ただ今日は本当、自転車のられる方がいろいろおられると思うんですけれども、この 2 年間、3 年間の間に感じたのは、スポーツ自転車っていうのは観光の牽引役にもなるし、まちづくりのネタにもなる。あと本当にスポーツ自転車の販売がビジネスとして成立するんだっていうのを体感したこの 3 年間ぐらいの期間でございました。ですから、そのあたりのちょっと、ざっくばらんな所を今回は実は裏方におりまして、私ら 4 人別名のチーム名がございまして、「守山傭兵 A チーム」と言われているんです。要は守山市役所がこういうことをやるにあたって、入り口、人がおりませんので、それを結局外人部隊、傭兵部隊で補ってサポートしてきたというのが実態でございまして、それの傭兵が表に出てきたという。それが今日のきっかけでございます。後でざっくばらんに聞きにくいこと、面白いことをお尋ねしていただけたら、出来る限りお話をして帰りたいなあ、と思いますのでよろしくお願いします。

京 極 ：はじめまして。ウイルステージ京極でございます。どうぞよろしくお願いします。自転車に対する思いということなんですけれども。私もともと、腰痛の持病持ちでございまして。椎間板ヘルニアなんですけれども、手術をしまして、自分の体験からいきますと、少し健康を保つためにマラソンをしようと思いまして 100 キロマラソンに挑戦して、3 度完走もしたんですけれども。世の中のブームが東京マラソン以来、マラソンの方に来ましてだんだんマラソンの大会に参加出来なくなってきて、次にいったのがトレイルランということで、山の中を走る大会。これも、どんどん人気が出てきまして、トレイルランから逃げるように自転車に逃げたのが今から 7、8 年前位ですかね。あくまでもファンライダーで、全然競技者でも何でもないんですけれども、なんか今ちょうどサイクリ

ングの業界に風が吹いてきてるなあという風に自らの体験で実感をしております。加えまして、私の個人の経歴の中にも書いてございますけども、銀行で地方創世に絡んでいろいろ仕事もしておりまして。やっぱりその観光と非常に自転車というのが相性がいいのかなぁという風に思っております。どういう風に相性がいいのかなと言うと例えば、一番端的に申し上げますと時間の流れ方なのかなという風に思います。高度経済成長期に、新幹線や高速道路がどんどんどんどんスピードを追求して、我々の仕事もそして、交通手段も全て運輸も、スピード追及してきた中で、ここにきて地方創世ということで、地方に光が当たっているということなのかなあと思います。自転車の移動距離ってだいたい50キロから100キロ位に慣れてこられるとロードバイクの場合は移動されますけれども、それがちょうど地元の風を感じて匂いを感じて、あるいはその今まで埋もれていた地方の観光資源に目がいったりですね。あるいはその地元の人しか知らないおいしい物に他県から来られた方が気付く、みたいなですね。非常に地方の観光資源、あるいは経営資源とマッチしやすい。そういう業界のサイクリング、今日のテーマでもありますけれども、自転車を軸とした観光振興。まさに今これ必要なことでですね。しまなみもいいです。ビワイチもいいです。是非とも、青森の方も頑張っていただいて一緒に盛り上げていけたらという風に思います。どうぞよろしくお願いします。

藤 原 ：皆さんこんばんは。藤原と申します。お手元にビワイチのパンフレットがあります。守山のパンフレットもです、ちょっとご覧になって下さい。先程、山形さんのお話の中で、駅の所、中心部ですけども。それで、琵琶湖大橋のあるエリアがありますけども、大体ここまで 10 キロありまして。私、守山市に引っ越して来て 10 年になりますけれども。学生時代、この琵琶湖でボートを漕いでおりまして。琵琶湖の素晴らしさっていうものを体験しております。学生時代には、5 日間かけて琵琶湖を一周します琵琶湖周航歌という歌がございますけども。一周する、それはビワイチの元々の原点はそこからあると私は個人的には思っております。琵琶湖を一周してみたいっていうのは琵琶湖を周航するという意味ですね、ところとかなり皆さんの想い、滋賀県民の想いとしては非常に共通する部分があります。それだけ実は琵琶湖に対しても想いがあるんですけども、実際、私は駅の近くに住んでいるんですけども、ほとんど大阪に往復するだけで、琵琶湖に触れることがない。ところがこの自転車は、すぐに琵琶湖に行けます。いうところで、守山市は平坦。山がないんです、守山市って。自転車に向いてますよ。まちづくりで地方創生は自転車でいくしかないって言って。最初はそういう頭から入りました。仕事柄そういうことをやっているものですから。まちづくりは自転車でとかいうところから入りましたけれども。自転車の想いとしては、やっぱり体にいいし、友達が出来る。損得なしにチャリ友になって、台湾一周した時は、戦友、と我々は呼んでいましたけども。そんなこと学生時代以来もう、ほぼ 30 年ぶりというか、そういう経験をしてね。これは自転車はいいという体で納得をしております。ここが重要かという風に自転車の想いはそこに尽きます。以上であります。

福士会長：地元の福士です。本当はこの場に座るのに一番適しているのは、私共のサイクリング協会のスペシャリスト小田桐が座れば一番良かったんですけれども。たいへんこういう時になると控えめなあれが出まして、小田桐さん控えております。五所川原市のサイクリング協会、私が関わったのは平成 10 年からなんです。当時の市長がお前、協会の会長やれよと。前市長が、そんなことを言われまして。それ以来関わってきました。今藤原さんが言いましたように、本当にサイクリング協会に入って、関わって、いい友達も出来ました、仲間が出来ました。そして楽しい思いもしました。いっぱい、記憶に蘇ってきます様な状況で。そして今日、控え室にここに座っておられる四方、コーディネーターの先生がおっしゃられた様に、まず本当にパワフルでございます。本当に圧倒された様な状況であります。今マイクを握ったついでに、当協会について、ちょっと触れたいん

ですけれども。随分と歴史が古い協会の様でございます。半世紀も経っているんじゃないのかなと思ったりもしています。そういう協会で青森県のサイクリング協会の、それこそ草分け的存在なのが五所川原市のサイクリング協会だろうと言われたりもしております。そういうサイクリング協会なんですけれども、ただ、協会の会員が、尻すぼみまではいかなくても、横ばい状態でなかなか会員が増えてこないというのが大きな課題の一つでありますし、さらにまた、この当地方ですね、守山市と違って合併して 11 年目になりますけれども、合併当時は 6 万 2,200 人ほど。そして今、5 万 6,700 人ということで毎年、約 10 年間の間に 5,000 人超の人口が減っている。守山市が毎年 500 人多くなっているという、その逆をいっている状況の中でサイクリング協会の活動をしています。そしてまた、サイクリング協会の益々の PR をして、会員の拡大に努めていかなければいけないなあというようなこと、実感しているところでございます。今日のこの機会を大事にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

岩船所長：はい。パネリストの皆様、本当にありがとうございました。皆さんに共通するのは、とにかく楽しいということで、しかも友達も出来て非常に自立しているということでして。出来得れば、それを地域の活性化というところに繋げていくことが出来ればということだと思います。それから地元の会長さんには非常に伝統のあるクラブなんだけども、残念ながら飛躍的に発展する様な状況ではないんだという風なことを伺っています。人口の減少、というのは五所川原だけではなくて、全国ほとんどの市町村に共通する課題かと思います。今日滋賀県からいらした方、いわゆる試走という形で、近辺をほんの少しだけ、私たちの感覚とはちょっと違うんでしょうけれども。ほんの少し走られたということですので、その感想を含めて、五所川原に対するアドバイスみたいなものをいただければと思います。あの、何も話のないうちにこういうことをいきなり言ってしまうのは申し訳ないんですけれども、先程申し上げた様に、非常に時間が切迫しておりますのでお願いいたします。また、同じ順番で山形様からお願い出来ますか？

山 形 ：アドバイスというお話でございますんですけれども、本当にお役に立てる話が出来るかどうかあれなんですが、地域の強みというのは必ずあると思っています。ご当地も走らせていただきました。岩木山の眺め。皆同じこと思っていると思うんですけれど、岩木山の眺めであったり、その空気であったり、そのりんご畑であったりというのは、やはり関西では見たことない風景で、非常に羨ましいというか、気持ち良かったというのは、多分皆思って、今日は 30 キロ位走りましたけども思っています。なので先程もまあお話も重複しますけども、何からやっていいか分からない。というのがよくある話なんですけども。私がいろいろ役所で 3 年おきに大体その異動するんだけども。その時に基本いつも考えているのが、自分たちの強みは何だろう？そして機会は何だろう？そして、それをどう組み合わせればいい方向に持っていけるだろうと。もうシンプルな方程式というか、いつも軸でそういう風に考えております。その方向性なんですけども、方向性は実は 2 つありまして。2 つというか、2 つの話がありまして。その 1 つは、その真似るということなんです。先輩たちがいるので、その「ビワイチ」だったら、「しまなみ海道」だったり台湾だったり、先輩がいらっしゃるもんで、その先輩から教えてもらって素直に真似るということだと思っています。私、部下にこういう風に言っていまして TPP を文字って TTP って言っていまして。徹底的にパクれと言っていますけども。徹底的にパクってあの真似をしろという面が 1 つです。もう 1 つは他にはないオリジナルを追求せよという、先程の漁船タクシーなんかは真似できないんです。私の部下が 20 年来漁業組合の組合長と、まあ友達とそういう絆を生かしてやっていますけども。他の漁業組合とかが他の市が真似するかなあと思ったら、なかなか漁業組合の船長さんっていうのは、なかなか気難しくて口説けないらしくって誰も追随しないんですね。これ、守山市のオリジナルビワイチ事業っていう形でもう確立していますので、こういう風にオリジナル

とその真似るの組み合わせだと思っています。それで方向性を出すということだと思いますんで。高橋さんにお聞きしましたけども列車に自転車を乗せる取り組みであったりというのは、始まっているようでありますので真似る部分とそれからオリジナルの部分とをご当地の方が一生懸命考え抜いて、それを実行して、それを巻き込んでいくと。それをマスコミさんだったり、企業さんであったりという方を巻き込んでいくというのが一番の近道であり、それが 1 つの方向性だろうと思いますんで、是非、頑張っていただければ。私たちも頑張りますんで皆さんも一緒に頑張ってサイクルツーリズムを盛り上げていって、サイクルってしまなみって思いましたけど、琵琶湖も行きたいなあ。とかいろいろ声を聞いていたんですよ。琵琶湖行きたいなあとか、次はどこ行こうかみたいなこと、大会に参加された方はブースで立ってると言われてましたので。皆、次行くとこ探しているんですよ。探しているので、必ずチャンスはごろごろ転がっているんで、次、青森、五所川原に行こうという風に思わせるような動きというかブームメントを作っていただければと思います。以上です。

大 谷 ：私は、実は本業は駅前の再開発の商業施設を作ったりとか、そういうコンサルティングやったり、手前どもで自分で施設を持って運用したりします。今回、自転車からの形で言います。実は、年明けに自転車店をオープンさせる準備をしていまして。まあスポーツ自転車の専門店をオープンさせる準備をいまやっております。こういうことに関わるきっかけというのは、実は先程、藤原さんも言ったんですが、市長に町をどうしたらいいのか、よく相談受けた中で自転車を使って思いを繋いでいったらいいんじゃないのと。そしたら、僕は自転車部にいたんですって言い出して。それなら、ネタ合わせピッタリじゃないかみたいな。そのとこから実は始まってその時、私共、考えたのは自転車って本当にビジネスになるのかな。そしたらそれを分析する必要があるなと思って、ジャイアントさんとか、大手さんのビジネスモデルをそれなりに分析も始めて、ただ店を出してくれと言っても、儲からない店を出してもしょうがないので。本当に儲かる店になるのかなあというのを考えながら。あとは純正な民間の立場で事業採算という、そのビジネスになるかどうかを見極めながら。あともう 1 つ、横に役所の人間がいて、言ったら怒られるんですけど。目標は設定するんですけど、駄目だったしょうがないなって、なんか諦めちゃうんですよ。ところが今、勝負時が来ているっていうのは何となく分かったもんですから、絶対にこの 1 年 2 年に形ある成果を出さないとやったことに意味がならないよ。ということを散々、秘書にも口すっぱく言いまして。最悪はジャイアントさんがお店出す手伝いをしてくれるんだったら、店の運用を私共でやってでも結果は出さなきゃ駄目だぞみたいな。そんなところまで追い込みながら皆でやってきたというのが、この 1 年 2 年の状況じゃなかったかと思います。その中で分かったのが自転車ビジネスは成立するんだっていうのを実感として分かることが出来ました。というのが、こんなこと言っていいのか分かりませんけど、ジャイアントショップがですね、ストアかな。初年度 1 年目で、実はこれ、本当に水際で何もないとこで、夜は動物の声と琵琶湖しか見えない様なとこで寂しいとこなんですよ。琵琶湖畔ですから。ですから、こちらでいうとこの十和田湖とか海沿いの場所だと思っていただいて。そんな店がホテルの 1 階にあると言いながら、ボロボロのホテル。だけど、あんまり言うとね怒られますけど。ホテルの人いないんで。ようこんな所で、と思っていたんですが、1 年で売り上げ出るの 4,000 万くらい出そうな見込みがたってですね。ですから多分、あの自転車店、ご商売されている方からすると、え？って思われるかもしれないけど。それくらいの状況は見えてきているんですね。ということはここにやはり勝機があるんじゃないかな。私も次、考えるのは点だったら駄目だよと。それを守山市に言うと市長は寂しい顔をしますので、守山の点だけだったら繋がらないので他の行政府で頑張っている民間企業の連中に声を掛けて、皆、自転車やれと。もしくはエイドステーション、サイクルステーションやれ

と。繋いでって線になって面になったら絶対に両方共に相乗効果が出るからということを言っていました。そのやり方は、先程、彼らが言ってるようにチャリ友にするのが一番いいな。例えば、近江トラベルさんっていう旅行会社。鉄道関係がやっている会社なんですが。そこの社長さん巻き込んで、最近聞いたら何か妙にすっきりしてスーツがブカブカだと。体調がやたらいいと。腰も回るしゴルフもスコア伸びたと。秘訣は？って聞いたら、週末に 30 キロ毎週乗っているんです、自転車に。奥さんにどこ行ってるかって怒られるから寝てる間にこそっと出かけて走りに行って帰ってきて、汗かいて。それが日課に、毎週のイベントになったら自分がどんどん良くなっているのが分かると。そうしたらこの前聞いたら、彦根の駅前にうちは自転車屋をやろうと思う。いきなり言い出すんですね。自分が。ありえない話なんですけど。そういう展開が意外と繋がってくるのが分かりましたんで、このあたりにポイントがあるんじゃないかなと思います。まあ、そのあたりちょっと他にも聞いていただければと。ちょっと代わります。

京 極 ：引き継ぐんですか？今日の試走しての感想ということでございますので、おこがましくは、どうこうっていうアドバイスではないんですけれども、私のこれまでの経験というかね、やってきた中でいろいろ、気付きの部分を具体的に申し上げていきたいなと思います。「しまなみ海道」、何が一番いいっておそらくブルーラインですね。広島の尾道から愛媛の今治まで。ずーっと約 70 キロ路側帯の横にブルーのラインが引かれて。来られた方はそれを見て走れば尾道行かれる、今治往復出来ちゃうと。非常に便利かつ分かりやすいんですよね。それから、何て言いますか 2 つの側面があると思うんですけども。1 つはどうやって、県外から他府県から観光客の方に来ていただくかという側面と、もう 1 つは、地元でどれだけ盛り上がることが出来るかと、この 2 つの側面を考えていかないと何事も進まないのかなあと思いますけれども。やっぱりその走る立場として思うのは、対話性が必要なのかなあというように思います。「しまなみ海道」でもいくつもの橋と島がまたがって存在しますけれども、その人の体力に合わせていつでも船に乗って、船に自転車を乗せて帰ることが出来るんですね。「ビワイチ」も先程申していましたけれど、漁船タクシーというやつでショートカットして、プチビワイチが出来ちゃうみたいな。弱虫ペダル以来女性のファンライダーも結構増えました。そこそこ会社のそれなりの立場になられた方も、1 つの人生のきっかけとして自転車を 40 代 50 代から始められる方もおられます。いろんな方が裾野広げていくためには、その多様性というかね、どこまでその利便性を、ぞれぞれの特性というか求められるものに対して、どうご提供していくかということなのかなと思います。先程、山形さんからも話ありましたですけれども、台湾に行った時に、張さんっていうジャイアントトラベルのガイド役してくれたリーダーの子が言っていたんですけれども。僕は台湾に自分のコースを 92 持っているよ。という風に言っていたんですね。非常に印象深かったので覚えているんですけれども。彼が言うところの 92 のコースって何なのかなっていう風に。これも先程の話もそうなんですけども、走ってみて初めて分かりましたね。何かっていうと、要は、要所要所でどこにトイレがあるか。あるいは、どこで昼ごはんを食べたらいいか。次までの距離がいくらで、大体今日の案内している方だったら何分くらいで着くか、みたいなのを設定して台湾一周しまして。約 800 キロか 900 キロかあるくらいだと思うんですけども。彼はその中に 92 のコースを持っているって言うんですね。ですから先ほど申し上げました様に、多様性っていうのはそういうことなのかなあと。要はいろんなショートカットコースもありですね。それぞれのその立場の方に合わせた。あるいは、女性も取っ付きやすい様なそんな形で裾野を広げていかないとなかなか、他府県からも呼び込めないし、そして、地元も盛り上がっていかないと。今度是非とも青森県内にも 92 のコースを作っていただいたら盛り上がるんじゃないかなあという風に思いますね。すいません。話が長くなっておりますけども、もう 1 つ言いたいことがありまして、世の中には「ビワイチ」

だけじゃなくて、他にも淡路島一周「アワイチ」って言うんですね。それから浜名湖一周「ハマイチ」って言うんですね。それから最近気付いたんですけども四国の方に行きまして小豆島、あれ「マメイチ」って言うんですね。いろんなイチがありまして。何ていうのかなサイクリストの特性としてなにかこう、一周するとか。どっからどこまでを走るという何か目標がないとなかなか、長距離を走れないっていうのもありますけれども。何かそういうキャッチコピーと、それから多様性と。そして先程、冒頭申し上げたようなブルーラインのような、ユーザーにとって優しいインターフェイスというかユーティリティーを追求していただくのも重大な要素なのかなという風に思います。以上です。

藤 原 ：皆さん、今日いろんなお立場の方が集まっておられると思います。私ですね、仕事の方では行政と民間を繋ぐ、最近、官民連携とか PPP と言われていますけども。そういう仕事をしております。そういう仕事をしている習慣からかも分かりませんけれども、やはり、とにかく皆さんいろんな能力を持っておられる方がいらっしゃいますので、そういう方々をどういう風に力を合わせるのかということを常日頃から考えているところがありまして。今回の取り組みも、そういうところいろいろ場を作っていくということですね。私はそのシンクタンク研究員でもありますけども守山市民なんですね。ここにいる3人は皆さん市外の方です。何で市外の人間が守山市のまちづくりに関わっているのかっていうと、結局、私が巻き込んでいるっていうところがありまして。やっぱり私だけの力では絶対出来ません。当然、市長だけの力でもトップダウンでも面従腹背でやりません。やっぱりいろんな能力を持たれている方をちょっとずつ力を借りていかないといけない。その時、大事なのはとにかく現場に連れて行く。という風に思ってます。やはり、市長同士で仕事をした時に、尾道 U2 っていう何か面白い施設があるぞ。という分かってですね。ちょっと一緒に行きませんか？と。これ絶対参考になるからっていうことで民間企業さんも鉄道事業さんの方も連れて行って、これおもろいなあ。これはちょっと市長に見せなあかんないうことで、もう早速その場で市長にあのお店行かなあきませんねと言ったら 7 月に調査団を組んで行きました。そしたら、何と尾道市長の平谷市長さんが出ていただいてですね、そこで市長同士のトップ対談というか、情報交換っていうのが尾道 U2 で開催されて、そこでいろんなノウハウを学ばせていただきました。民間のそうやって市長が行きますといろんな方が集まっていただけるので、いろんな情報が入ります。大変素晴らしい情報が集まる。次はどなたか今度は今治だということで、今度は愛媛県今治を調べてみると、ここもまた、民間企業とか NPO とかいろんな方々が参画してやっているので、これはちょっと徹底的にヒアリングをしなければならないと思って、皆さん行きましょうということで行きました。そこでもいろんなお話をお聞きしまして。やはり推進だけでは駄目だよ、安全だよと。安全をおろそかにしたら事故が起こると、もうそこで終わっちゃうぞっていうことも教えていただきました。そういういろんな方々の、力を結集するためにとにかく現場に行くということが非常に大事でですね。そうするといろんな繋がりが出てきます。今治市に行ったら 1 月の終わりに行ったんですけども、いや実に 4 月に守山市に引っ越すんですっていう女性の若い方がいらっしゃいました。今、市の臨時職員で働いていらっしゃってます。ものすごくいいタイミングで、こんな戦力はないということでその場で、何か面接みたいになっちゃいましたけれども。何かそういういろんな方の力を尾道市の方、今治市の方も結集して、それから台湾に行ってしまいましょう、というところでですね。今度、台湾の方々のノウハウも学ばせていただきました。ということで、徹底して現場主義で、やっぱり地元愛する気持ちが多分そういうところに繋がっていくと思うんですね。私も子どもがおりますけども、やっぱり子どもと一緒に「ビワイチ」をしたい。けど安全じゃないので今は走らせられない。何とかしてくれよって思うところがあって頑張っているところもあります。皆さんやっ

ぱりそういう地元愛で現場主義ではないのかなあという風に思っています。

福士会長：先程、地域の強み。それから、自分たちの強みというお話が出ました。この間先月の 24 日の日ですか、青年会議所の主催で高校生と、そしてまた行政の若手の方との今後の五所川原を語ろうという場に出させていただいた。その時、五所川原市のいい所、悪い所、こう書きなさいと模造紙を広げて。そして、私のテーブルにいた高校生が即、自然と書きました。いい所には自然と。悪い所には就職先がないというような事を書いたんですね。ですからここの強みというのは私共、普段この見慣れている、そしてまた常々接しているという事から良し悪しというのが分からないまま過ごしている日常ではないかなと。私の家内、千葉出身なんですけども、実家の兄が、結婚してから来た時に、緑の色が違うと言うんですね。私共いつもその見慣れているその緑、こんなもんだろうと思っているけども、外部から来た人は、やっぱり違う。違いを私たちの本当の良さっていうものを表現してくれるわけです。そしてまた自然の良さ、そしてまた食べ物も寒さがあるから、寒さがあれば自分の体を守るために、その生き物って濃度を高めるんですね。ですから、養分が凝縮されて糖度が上がったりと。これ事実なんですね。食べ物もおいしい。そしてまた人間も IOC のバッハ会長が言ったように、おもてなしの心もこれもまたすこぶる優れているところだろうなと。そして自分たちの強み弱みになるのが控えめではないのかな。そしてまた慎重。先程、山形講師が言われましたように、走りながら、考えながら走ると。そこが足りないんではないのかなと。慎重すぎて、もう目標を求めてしまうまではなかなかそこへ走っていかない。でも、やっぱりある程度のリスクを背負いながら行動するという事が必要なんだろうなと。そして、今は五所川原市のサイクリング協会、そしてまたサイクリングにお手伝いして下さっている皆さん方から見るとですね、守山の「ビワイチ」に比べると、それこそ 2 周も 3 周も遅れている。2 周 3 周遅れのトップランナーでもいい。少しでも、近づくための努力をこれから続けていきたいなあという風に思っておりますので、どうかひとついろいろとご協力やらしていただけたら大変ありがたいという風に思いますので会場の皆さんよろしくお願いします。

岩船所長：ありがとうございました。パネラーの方は全然時間が足りなくて思ったことの十分の一も多分おっしゃれなかったと思います。また機会がありましたらご登壇いただいて、思いのたけを話していただきたいと思います。時間もまいりましたので簡単に、今日のパネルディスカッションの中身というのを私なりに要約させていただきたいと思います。サイクリングと地域の振興というものをどういう風に結びつけるのかという事ですけれども。まず前提条件として地域に対する想いというのがあり、それをばねにして地域の宝を必死になって探す。あるいは考えるという行動が第一のステップということになると思います。民間のパネラーの方が同じような事をおっしゃっていましたけども、考える探すということだけで終わっては、次の段階っていうのには進めないことで、ある程度の環境が整備されれば、思い切って次の段階、実際の行動というもので進んでいく必要があるだろう。ただ、短期で敵陣へ切り込むという事ではなくて、言葉としては巻き込むだとか、繋ぐだとかという言葉が頻出しておりましたけども。どういう風に皆で力を合わせられるのか、あるいは合わせるように仕向けるのかという工夫が非常に大事だという事も指摘されていた事と思います。当然ながら事業者だけでなく、マスコミですとかそういうものを活用した PR というものも大事になってくるでしょう。最終的には活動の段階で、いつまでに何をするのか。いう具体的な目標というのを、作っていかないと運動そのものが拡散してしまう可能性があるんだみたいな、ご指摘もあったと思います。私の勝手な総括ということで会場の皆様には違うご意見も当然あると思いますので。この後、ほんの少しですけれども時間を取って質疑応答ということにあてていただきたいと思います。

司 会 ：ありがとうございました。パネルディスカッション自体はこれで終了させて頂きますけ

ども、せっかくの機会でございますので、何かご質問、聞いてみたいことがある方ございましたらご遠慮なく手を挙げていただきたいのですが。どなたか。

小田桐：すいません。五所川原市の小田桐でございます。先程一緒に走らせていただきました。今回の事業、地方創生でやられているということで、地域づくりという面もあるとは思うんですけども。今回この「ビワイチ」やられて、市民、住民の自転車に対する意識っていうのは変わってきているのって見られるのでしょうか。

山 形 ：「ビワイチ」の温度を盛り上げて、市民の皆様がどう変わったかというお話でございますけども、最初は懐疑的だったんですよ。皆さん本気でやるのかな、みたいな感じで。ただ、矢継ぎ早にいろんなことを繰り出しましたので、これは本気だなというのがどうも浸透したみたいで。あと、その市長が通勤に自転車を乗って選挙応援まで自転車で行くようにしていたので、あっ、トップもやってるんだみたいな感じでやっていまして。明らかにその何か自転車の町づくりってのが、じわじわじわと理解を得られるようになりました。次の段階で考えているのが、先程申し上げた、「琵琶湖守山自転車推進協議会」なるものを立ち上げて。これは個人会員さん 100 人と企業さん 20 社くらいですかね、会員さんで市民活動を盛り上げる。役所では身動きがなかなか取れないので、いろんな自転車に親しむイベントはそちらでやるっていう話になっているんですけども。先程話があった、今治の NPO さん、シクロの家という有名な所があるんですけれども。そちらまでのレベルが到達出来てなくて。行政の補助金が無くなったら、ちょっと難しいな。というのがありますんで、なので事業化してもらうのか NPO 化するのか、ちょっと方向性が定まってないので、ここを軸にもっと市民活動、市民の盛り上がりっていうのをやっていきたいなと思いますけど。ただ、先程のタクシーサービスだったりいろんなことを通じて自転車補助金であったりを通じてちょっと見る目は変わってるんだなあと思います。

小田桐：ありがとうございます。

司 会 ：他にいらっしゃいますでしょうか。どうぞ。

質問（男性 A）：先程ありがとうございました。

質問（男性 A）： 行政というか、道路の方とかやっぱりハードの整備とかになると、行政の方にいかに協力していただけるかってことがやっぱり大切になるんですけども。私たちの方で行政の方に動いてもらうために何かツボというか、抑えておかなきゃいけない所とか、行政の方に動いてもらうにはどういう風なアプローチの仕方をすればいいのかっていうのを是非、教えて頂きたいのですが。

山 形 ：先程申し上げたように「ビワイチ」の場合県道が多いので、知事に走らせる。知事に自転車を買わせる。これが最初始めた最大のミッションというか、最初のハードルでした。今日、緑のペーパーの裏側に雑誌のコピー付けてますけども。これは初めて知事が「ビワイチ」をしたっていう。これもうちの市長からけしかけて「ビワイチ」、「ビワイチ」言ってんだったら、「ビワイチ」自分もしろよ、みたいな話で言って走ってもらいました。そうすると分かるんですよ。これは危ないとこいっぱいあるね、みたいな話になるんで。要はトップを乗らせる、気付かせる、本部長呼んで、お前ここちょっと危ないよ、みたいな話を言わせる。という、そういうトップダウンをやらないといけないですし、あと、民間の有力者の方。先程、京極さんの出身の滋賀銀行さんの会長とか、近江鉄道の社長とかも一緒に自転車買ってもらって走ってもらうと、いろいろ偉い会合とかで言うわけですよ。私走ったけど、あそこ危ないね、とか言うので、そうすると話が動き出すみたいな。そんな仕掛けです。仕掛け。

藤 原 ：それ言うと聞こえはいいですけどね。やっぱりね影響力のある人に言われると動かないといけない。それからトップ同士の競争をあおる、知事と市長がどちらが「ビワイチ」の推進者かって言うことでですね。やっぱり頑張らないとやばいなって思わせる事、大

事ですよね。人間その気にさせること、いろんな心理的な部分をうまく作っていくことですよね。競争心。それから怒られたら怖い。怒られてこの人に言われてやらんかったら昇進出来ないとか。何かそれを、やっぱり上手く使わないといけないし。根本は自転車好きな人たちが、それを動かしていく。その影響力のある方を巻き込んでやると、裏で自転車走って、表で権限を行使するというですね。いうこと完璧だと。

質問（男性 A）：ありがとうございます。

大　　谷：1 つは、時期が大事です。選挙前なんかはすごく困りますんで、そのタイミングは皆さん逃さずですね。

質問（男性 A）：そうですね。選挙前に集中してやっていただくと。

大　　谷：　でやって頂くと。あとさっき、銀行の話が出ましたけど。そのジャイアントの劉さんが来る大きなイベントの時に銀行さん一切出席する予定がなかったんです。ただ、たまたまちょっと知り合いもいたもんですから、このタイミング面白いよということをしつこく言ったら、むりくり会長が来ることになって。そしたら、会長は 10 年間何か自転車でひどい怪我をして封印をしてたらしいんですよ。それが、ちょうど会長になって乗ってもいいよ、というタイミングもあったもんですから、すごい楽しかったらしいんですね。それを銀行に帰って、また楽しかった楽しかったって言い倒したら、面白いことにエリアの近くの支店長が皆、自転車乗り始めまして。次には今度行員全部つかまえて、何か自転車クラブみたいな。面白いですね、トップが動くと急に動き出すんですよね。鉄道会社の方も社長が乗り始めたもんですから、もう何か今 10 数人自転車を買って。会社自体そういう動きに変わってんですよね。やっぱタイミングをもありますし、その競争させるていうのはあれですけど。何かきっかけで火が付くこと、あると思います。そこを皆さん見極めて仕掛けていただくのがいいんじゃないかなと思いますね。

藤　原：私、台湾に行った時に、ジャイアントの劉会長にインフラ整備の官民の役割分担は何だ？って聞くと、もう単刀直入に行政の仕事だって一言です。要は何かジャイアント社さんが金出してやってるところもあるのかなあと思ったんですけど、全く期待はずれでですね。もちろん行政の仕事だよ。インフラは行政の仕事。と言っていましたけども。その後、台湾一周を走って分かったのは、ファンダを走って、走りやすいんですね、本当に。いろいろお聞きするとやっぱりそういうインフラ整備をさせたのは、劉会長。当然ながら、ものすごく影響力持っていますから。そういうことで多分やれと。そういうことで言わせていると聞いたことがありますけども。やはり基本は、インフラ整備は行政の仕事なので、それを影響力のある人にきちんと言ってもらうことが大事だなって。実際、台湾でもそうだ、というのを実感しました。

質問（男性 A）：ありがとうございます。

司 会 ：琵琶湖一周する時に、要は休憩するポイント。エイドステーションみたいなのをどうしようかということで随分いろんなお話を取り組みどうしたらいいんだ、というようなことで、やっぱ途中のコンビニですよね。ちょっとよろしければ、どなたかなかなか休憩所っていうのは、あえてやってもらうっていうことは難しいと思うんですけど、いろいろご苦労させられたみたいで、もしよろしければどんな形で進められたかっていう。

京　　極：ビワイチサポートステーションですか？ビワイチサポートステーションっていうのは、私が運営してるわけでなくて、県が出してるわけですけども。昨年の冬、おそらく 10 月だと思うんですけれども。県内、琵琶湖を取り囲むかたちで 46 か所。当初は、各市町村に県から声掛けをして各市町村、村はない。市町を通じて、どちらかというとコンビニ。あるいはヤマト運輸とか。置きやすい所にサイクルスタンド置いたり旗を立てたり。あるいは工具を置いたり、空気入れ置いたり、みたいなことはやってました。今年の 10 月に、正式運用になりまして、県内おそらく 100 か所を超えたと思います。琵琶湖一周のみならず、内陸といいますか、滋賀県の面積に占める琵琶湖の割合が約 6 分の 1 です

から、大きく見えますけど真ん中にどーんとありますので、大きく見えますけれども結構、山間部っていいますか、たぬきで有名な信楽焼きとかもありますんで、信楽という所にもありますし。結構、滋賀県の琵琶湖が真ん中にありますけれども広くございまして、琵琶湖の周辺に限らずで約 100 か所のサイクルサポートステーションっていうことで正式に運用が始まっています。

大　　谷：皆さん、お手元にこのパンフレットがあると思うんですけど、これのちょっと裏面を見ていただいて。

左の所に守山サイクルサポートステーションと書いてる。これは守山市の一部なんですが。当初、本当に県内に 10 数か所しかなかったんですね。それが、今はやらなきゃ損だと。乗っかれみたいな。100 くらいまで増えているんですね。多分、今後また増える。特に講習、受けたらポンプと工具をもらえて、実質、登録に払うお金とほぼ一緒くらいなんですけども。要は、急にコンビニの前にサイクルスタンドがポコポコ置かれるようになったんですよ。そこに寄ったら何かということで。ですから、そういう流れが出来ると皆焦るんですよね。うちもやらなきゃ、みたいな感じになるんですよね。それがやっぱり知らないとこ走って安心感につながりますんでね。そしたらこういう流れは仕掛けていただく価値は十分にあると思います。

司 会 ：ありがとうございました。もうそろそろ、お時間もあれですので、最後のご質問にさせて頂きたいと思うんですが、最後どなたかいらっしゃいますでしょうか？よろしいですか？はい。それではご質問等ございませんようですので、パネルディスカッションの部、質疑応答の部、終わらせていただきたいと思います。最後になりますけれども、閉会のご挨拶ということで五所川原市サイクリング協会会長であります福士寛美様、閉会のご挨拶をお願いしたいと思います。

福士会長：皆さん、短い時間でしたけど本当にご苦労さまでございました。最後までお付き合いいただいてありがとうございます。そしてまた、今日パネリストとして、そしてまた講師として、この遠くまで、わざわざおいでいただきました 4 人の方、本当にありがとうございました。

この間、数日前のテレビでこんな場面に遭遇したんですけど。その一番最初から見なかったんですが、東京都の知事小池百合子さんが、東京にはありとあらゆるものがあると。足りないものは希望だと。多分、希望塾の開会のあいさつのこの場面だったのかなあと思います。東京にはありとあらゆるものがあるけれども、足りないものは希望だろうと。この青森県には、東京にないものがいっぱいいいものがあります。そしてこの間、東奥日報さんの方で紙面から発表されました自治体ランキング。魅力ある自治体ランキング。47 都道府県の中で 17 番目なんですね。そして前年は 25 番目ぐらいだったかな。このランキング上げたんですね。ですから、やっぱり全国の方々、そしてこの青森県を評価してくれる度合いっていうのが随分と高まってきていると。これを生かしていかなければいけない。先程申し上げましたけれども、やっぱり当県そしてまたこの地域に足りないのが情報の発信だろう。控えめだとよくいうことが一番マイナス部分なんではないのかなあと思います。そしてまたあの、これもテレビでしたけれどもイギリスの観光客ですね。青森県にいらした観光客が、青森県って青森県をいろいろ調べたんだけれども情報が足りないなあと。でも食べ物は美味しいわと、そういうコメントを出していました。そこにある共通するものがあります。良さを、どんどんどんどん発信して、そしてまた、この自転車、サイクリングを絡めながら、この地域の元気につながることを、皆さんと一緒になってやっていきたいなと思いますので今後共よろしくお願いしたいと思います。本当に短い間でした。時間足りないかと思いますけども最後までお付き合いいただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

司 会 ：ありがとうございました。これをもちましてサイクルツーリズムフォーラム「自転車を

軸とした観光振興自転車で琵琶湖を一周する観光『ビワイチ』講演会」とパネルディスカッションを終了したいと思います。本当に皆様、本日はありがとうございました。

参加者アンケート

・もっと長く聞けたら良かったと思います。
・取組みにおいて、都市開発コンサルタントが中心になっている点が新鮮であった。そういう民間とのコラボがあるんだなというところ。
・大変興味深い内容でした。行政サイドの役割り、トップの動かし方、マスコミ広報の苦労話が参考になりました。
・パネルディスカッションの時間が短かったため残念でした。もう少し具体的な話を聞きたかったです。
・ビワイチに携わった人のお話、大変有意義でありました。大谷様の話された眺めにもう一回注目し、見直してみたいと感じました。
・パネルディスカッションの時間をもう少しとって欲しい。皆さんの話をもっと聞きたかった。
・ビワイチをしたくなりました。とてもいい話や感想でした。
・実際に実施している人の声を聞けてよかった。
・普段聞けないような他地域の取り組みを聞くことができて、大変有意義でした。
・具体的な先進事例について知る機会が得られ、有意義でした。自転車に触れる機会はあまりなかったのですが、興味が沸いてきました。サイクリング人気については感じることが多かったので、当地域でもこの流れを活かして地元の魅力を発信できればと思います。
・守山市独自の取組みと隣接する市との連携がすばらしいと思いました。強みをとことん活かした手法を参考にしたいです。トップダウンで進めている体制もうらやましく感じました。サイクルツーリズムに興味を持ちました。地域づくりの新しい視点として考えていきたいと思います。
・内容は「10」です。「8」は時間が少なかったことです。とてもためになるお話を聞けました。自分が勤める指定管理施設の役割を考え、岩木山地域をサイクリング地として出来ることが見つかったと思います。とても有意義な講演会でした。
・僕自身自転車に乗っていて、自転車は楽しいし友達ができると知っていた。ただ、今日講演で話があったような「地域の強み」とか今まで考えたことがなかった。今日をきっかけに考えてみたいと思う。そのことで新たな友達ができると思うから。
・2 時間があっという間でした。皆さんの話がおもしろい！さすがです。
・守山市の地域活性に一生懸命さを実感致しました。
・サイクリング自体あまり興味がなく来たので、専門の言葉がでたりした場合、あまりよく分からなかった。
・大変貴重な内容のお話を聴くことが出来て大満足です。青森からは遠い感じの琵琶湖ですが、是非とも走りに訪れてみたいですし、観光ビジネス起業の多大なヒントを get しました。
・様々な視点から考えるきっかけを得られてためになりました。具体的な作業内容を今後学べればと思います。
・多々御苦労があると思うが、取組みに感動いたしました。
・他県の取り組みを知る事ができ有意義であります。今後もこの様な観光振興につながるイベント（フォーラム等）開催して欲しい。
・自転車に乗らない人の長話はいらない。
・またやってください。コース作りましょう。自転車道の整備、行政動いてもなかなか進まないとは！（だれが止めてるんでしょうね）
・All Aomori を意識され、産学官民の盛り上がりを期待する。

サイクルツーリズムフォーラム試走報告書

試走会１回目

日時：平成 28 年 11 月２日（水）　15 時～17 時

参加：10 名

守山市役所　政策調整部次長 兼 地方創生推進室長	山形　英幸
株式会社ウイルステージ　代表取締役	大谷　洋士
株式会社ウイルステージ　営業統括部長	京極　卓也
三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員	藤原　誠二
五所川原市サイクリング協会　事務局長	小田桐　浩
五所川原市 経済部観光物産課　観光係長	太田　裕成
（サポートサイクリスト）	
JCA 公認サイクリングガイド	江利山　元気
津軽海峡フェリー株式会社　社長室長	高橋　俊介
サポートカースタッフ	山口　英治、田中　智

試走コース：

ホテルサンルート五所川原～津軽富士見湖～鶴の舞橋（北津軽郡鶴田町）～ホテルサンルート五所川原

走行距離：約 13Km

内容：

試走コースは、地元、五所川原市、五所川原市サイクリング協会の意見を取り入れて計画。初日は、比較的気軽で安全、シームレスに走れるルートを設定した。小田桐事務局長、江利山氏のガイドにより、五所川原市中心街より岩木川沿いを南下して、鶴の舞橋（鶴田町）へ向かう試走会を実施。途中、招聘したサイクリスト目線による道路状況の確認、地域にある景観の発掘等、チェックポイントを確認しながら試走会を終えた。

自転車専用宅配便シクロクロスから自転車を取り出して組み立てる参加者(左)　ホテル出発(右)

雄大な岩木山を正面に岩木川堤防を快走(左)　丹頂鶴自然公園に到着　鶴の舞橋と(央)　岩木山をバックに(右)

試走会２回目

日時：平成 28 年 11 月３日（木・祝）　10 時～16 時
参加：10 名

守山市役所　政策調整部次長 兼 地方創生推進室長	山形　英幸
株式会社ウイルステージ　代表取締役	大谷　洋士
株式会社ウイルステージ　営業統括部長	京極　卓也
三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員	藤原　誠二
五所川原市サイクリング協会　事務局長	小田桐　浩
五所川原市 経済部観光物産課　観光係長	太田　裕成
（サポートサイクリスト）	
JCA 公認サイクリングガイド	江利山　元気
津軽海峡フェリー株式会社　社長室長	高橋　俊介
サポートカースタッフ	山口 英治、田中　智
青森中央学院大学　地域連携課	千葉　智

試走コース：
ホテルサンルート五所川原～
立佞武多の館～五所川原駅＝（津軽鉄道）＝津軽中里～十三湖～龍泊ライン（眺瞰台）～竜飛岬～
三厩界隈～奥津軽いまべつ駅～芦野公園～斜陽館～五所川原駅～ホテルサンルート五所川原
走行距離：約 144Km
内容：
雨天強風のため、試走コースを車両で視察した。コースは前日同様、地元の意見を取り入れ計画。中級から上級者向けのルートを設定しつつ、津軽鉄道を活用したビギナー景観地を楽しめるオプションルートについても紹介。各ポイントにおいて道路状況及び景観等を視察しながら、観光材料になりうる素材等の発見もあった。龍泊ラインの勾配と眺瞰台の景色には圧巻の様子であった。三厩界隈の漁村風景も魅力的な素材になりうるそうである。地域住民や販売店の方との接点もあり、新鮮な感覚を受けたようである。コースは交通量も少なくサイクリストにとり走行しやすい。コースの組み合わせ次第で、何種類ものコース設定が可能との意見があった。

菊地館長の案内で立佞武多の館を視察(左)　津軽五所川原駅から津軽鉄道に乗車(右)

龍泊ライン眺瞰台にて(左)(央)　　竜飛岬から北海道を望む(右)

所感：

津軽・五所川原地域が既に持っている「自然景観」「食」「文化遺産」などをさまざまなルート設定で走らすことが出来る“非常に恵まれた環境にある”というご意見を頂いた。当然ながら、エイドステーションやサイクルステーション、ルート・距離表示、走行路面の整備など、今後、サイクリングルート・エリアとしてプロモートするうえでハード的に整備されるべきものはあるが、とのこと。

「ビワイチ」は、しまなみ街道に次ぐ人気となりつつあるルート。その仕掛け人たちが、津軽・五所川原の視察でどのような感想を抱かれるのか大変注目されたのだが、地元の人間が思う以上に可能性を秘めた地域であることをご指摘頂いたことは、地域の大きな励みになったと思う。

今後必要となる「受け入れ環境整備」においては、諸施設の接客接遇の向上やサイクリングガイド等のスペシャリストの育成など地元地域の人材育成、そして、レンタルバイクやガイドといった新たな就業機会（雇用）の創出が期待されます。

津軽海峡フェリー株式会社　社長室長　高橋　俊介

平成 27 年度採択　文部科学省　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

発行日　平成 29 年 1 月 10 日
発　行　青森 COC＋推進機構　雇用創出連携プロジェクト
「ツーリズム」
事務局　青森中央学院大学　COC＋事業推進事務局
〒030-0132　青森市大字横内字神田１２
TEL：017-728-8161（直通）　FAX：017-738-8333
E-mail: acgu-coc@aomoricgu.ac.jp